

# 今を耕し、 未来のために 自然と生きる

世界で達成すべき17の目標「SDGs」が提唱されて8年。持続可能な開発目標は今や広く浸透し、取り組むことが当たり前となった。

農業もちろん、その一つ。

澤村輝彦さんは、未来の子どもたちへ届けたいという思いで有機農業を開始。年間を通して栽培できる環境を整えた。

角心拓也さんは、物価高騰を見据え、土壌づくりでエノキの菌床を肥料にして経費を抑えた。

三角サトウキビ活性化会は、江戸時代から続く栽培方法と黒砂糖作りの文化を途絶えさせないように、地域を巻き込んで新たなムーブメントを起こした。

戸馳の米農家たちは、「戸馳愛」の下、グループを作り戸馳の農地を守ろうと活動を始めた。

これらは全て、未来のためのSDGsの取り組み。

持続可能な方法を探し出し、将来の地域や子どもたちの世代に何が残せるのかを考えた先の農業だ。

まだ道半ば。今後も出会う自然の摂理と対峙し、向き合い、新たな方法を模索することも必要となる。

だからこそ、自然と共に生きる農業——。探求は続く。

